(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3964610号
(P3964610)

(45)発行日　平成19年8月22日(2007.8.22)　(24)登録日　平成19年6月1日(2007.6.1)

(51)Int.Cl.		F I		
A61F 13/15	(2006.01)	A41B 13/02	K
A61F 13/494	(2006.01)	A41B 13/02	G
A61F 13/49	(2006.01)	A61F 5/44	H
A61F 5/44	(2006.01)		

請求項の数 6　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願2000-300203(P2000-300203)
(22)出願日　平成12年9月29日(2000.9.29)
(65)公開番号　特開2002-102281(P2002-102281A)
(43)公開日　平成14年4月9日(2002.4.9)
審査請求日　平成15年6月16日(2003.6.16)

前置審査

(73)特許権者　000115108
ユニ・チャーム株式会社
愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地
(74)代理人　100066267
弁理士　白浜　吉治
(74)代理人　100134072
弁理士　白浜　秀二
(72)発明者　鈴木　征爾
香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

審査官　関谷　一夫

最終頁に続く

(54)【発明の名称】使い捨て着用物品

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

縦方向，横方向，前胴周り域，後胴周り域，およびそれら胴周り域の間に位置する股下域を備え、前記前後胴周り域を互いに並行して前記横方向へ延びる両端縁部と、前記両端縁部の間を前記縦方向へ延びる両側縁部とを有し、

透液性表面シートと、ラミネートによる複合シートからなる不透液性裏面シートと、それら表裏面シートの間に介在する半剛性体である吸液性コアと、前記両端縁部の裏面シートの間に伸長状態で取り付けられた前記横方向へ伸縮する胴周り用弾性部材と、前記股下域における前記両側縁部に伸長状態で取り付けられた前記縦方向へ伸縮する脚周り用弾性部材と、前記表面シートの外面に配置されて前記物品の両端縁部と両側縁部とに固着された実質的に不透液性のカバーシートと、前記前胴周り域と前記後胴周り域との少なくとも後胴周り域において前記カバーシートの外面を前記横方向へ延びる実質的に不透液性の胴周り用防漏カフとを含み、

前記カバーシートが、前記縦方向へ長い中央開口部を有し、

前記胴周り用防漏カフが、前記物品の端縁部の側に位置して、前記胴周り用弾性部材の最内側と前記吸液性コアの端縁との間において前記カバーシートに固定された固定部と、前記固定部から前記股下域へ向かって延びる自由端部と、前記物品の両側縁部に位置して前記カバーシートに固定された側部とを有し、前記横方向へ伸縮する弾性部材が前記自由端部に伸長状態で取り付けられていて、前記固定部を起立支点として前記カバーシートの上方へ起立する障壁を形成することを特徴とする使い捨て着用物品。

【請求項２】
前記カバーシートの開口部が、前記股下域から前記前後胴周り域へ延び、前記防漏カフの自由端部が、前記前後胴周り域に開口する前記開口部の上方へ延びている請求項１に記載の物品。
【請求項３】
前記防漏カフは、前記物品の両端縁部から前記縦方向外方へ延びる前記カバーシートの部分が前記両端縁部において該カバーシートの外面の側へ折り返されることにより画成されている請求項１または請求項２に記載の物品。
【請求項４】
前記防漏カフは、前記物品の両端縁部から前記縦方向外方へ延びる前記裏面シートの部分が前記両端縁部において前記表面シートの外面の側へ折り返されることにより画成されている請求項１または請求項２に記載の物品。
【請求項５】
前記防漏カフの起立支点と前記胴周り用弾性部材との離間寸法が、５～１５ｍｍの範囲にある請求項１ないし請求項４いずれかに記載の物品。
【請求項６】
前記防漏カフの起立支点が、前記物品の両側縁部の側を前記横方向へ延びる前記コアの端縁近傍に位置している請求項１ないし請求項５いずれかに記載の物品。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、排泄物を吸収、保持する使い捨て着用物品に関する。
【０００２】
【従来の技術】
特開平４－３５４９４８号公報は、透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に吸液性コアが介在し、互いに対向する前胴周り域および後胴周り域とそれら胴周り域の間に位置する股下域とを備え、前後胴周り域の両側縁部が連結されて胴周り開口と一対の脚周り開口とが画成された使い捨てパンツを開示している。
【０００３】
このパンツには、胴周り方向へ伸縮する複数条の胴周り用弾性部材が胴周り開口の縁部に伸長状態で取り付けられ、脚周り方向へ伸縮する複数条の脚周り用弾性部材が脚周り開口の縁部に伸長状態で取り付けられている。胴周り開口の縁部には、胴周り方向へ延びる胴周り用防漏カフが取り付けられている。防漏カフは、胴周り開口の縁部の側に位置してパンツに固着された固定端部と、固定端部から股下域に向かって延びる自由端部と、前後胴周り域の両側縁部に位置してパンツに固着された固定側部とを有する。自由端部には、胴周り方向へ伸縮する弾性部材が伸長状態で取り付けられている。防漏カフでは、弾性部材の収縮によって自由端部が表面シートの上方へ起立して障壁を形成する。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
同号公報に開示のパンツでは、防漏カフの固定端部が胴周り用弾性部材に重なり、防漏カフの起立支点が胴周り用弾性部材に近接しているので、胴周り用弾性部材が収縮すると、それにともなって固定端部と自由端部とが胴周り方向へ収縮する。防漏カフでは、自由端部が収縮すると、それに多数の皺が寄り、自由端部に表面シートの上方へ起立する部分と表面シートの側へ倒伏する部分とが形成される。自由端部の前記倒伏する部分は、障壁として機能せず、排泄物がそこを乗り越えて胴周り開口の縁部から漏れてしまう場合がある。
【０００５】
本発明の課題は、胴周り用防漏カフの自由端部に表面シートの側へ倒伏する部分が形成されることはなく、自由端部が障壁として機能し、排泄物の漏れを防ぐことができる使い捨て着用物品を提供することにある。

【０００６】
【課題を解決するための手段】
前記課題を解決するための本発明に係る使い捨て着用物品は、縦方向，横方向，前胴周り域，後胴周り域，およびそれら胴周り域の間に位置する股下域を備え、前記前後胴周り域を互いに並行して前記横方向へ延びる両端縁部と、前記両端縁部の間を前記縦方向へ延びる両側縁部とを有し、
透液性表面シートと、ラミネートによる複合シートからなる不透液性裏面シートと、それら表裏面シートの間に介在する半剛性体である吸液性コアと、前記両端縁部の裏面シートの間に伸長状態で取り付けられた前記横方向へ伸縮する胴周り用弾性部材と、前記股下域における前記両側縁部に伸長状態で取り付けられた前記縦方向へ伸縮する脚周り用弾性部材と、前記表面シートの外面に配置されて前記物品の両端縁部と両側縁部とに固着された実質的に不透液性のカバーシートと、前記前胴周り域と前記後胴周り域との少なくとも後胴周り域において前記カバーシートの外面を前記横方向へ延びる実質的に不透液性の胴周り用防漏カフとを含み、
前記カバーシートが、前記縦方向へ長い中央開口部を有し、
前記胴周り用防漏カフが、前記物品の端縁部の側に位置して、前記胴周り用弾性部材の最内側と前記吸液性コアの端縁との間において前記カバーシートに固定された固定部と、前記固定部から前記股下域へ向かって延びる自由端部と、前記物品の両側縁部に位置して前記カバーシートに固定された側部とを有し、前記横方向へ伸縮する弾性部材が前記自由端部に伸長状態で取り付けられていて、前記固定部を起立支点として前記カバーシートの上方へ起立する障壁を形成することを特徴としている。
【０００７】
【０００８】
【０００９】
本発明の実施の態様の一例としては、前記カバーシートの開口部が、前記股下域から前記前後胴周り域へ延び、前記防漏カフの自由端部が、前記前後胴周り域に開口する前記開口部の上方へ延びている。
【００１０】
本発明の実施の態様の他の一例として、前記防漏カフは、前記物品の両端縁部から前記縦方向外方へ延びる前記カバーシートの部分が前記両端縁部において該カバーシートの外面の側へ折り返されることにより画成されている。
【００１１】
本発明の実施の態様の他の一例として、前記防漏カフは、前記物品の両端縁部から前記縦方向外方へ延びる前記裏面シートの部分が前記両端縁部において前記表面シートの外面の側へ折り返されることにより画成されている。
【００１２】
本発明の実施の態様の他の一例としては、前記防漏カフの起立支点と前記胴周り用弾性部材との離間寸法が、５～１５ｍｍの範囲にある。
【００１３】
本発明の実施の態様の他の一例としては、前記防漏カフの起立支点が、前記物品の両側縁部の側を前記横方向へ延びる前記コアの端縁近傍に位置している。
【００１４】
【発明の実施の形態】
添付の図面を参照し、本発明にかかる使い捨て着用物品の詳細をパンツ型のおむつを例として説明すると、以下のとおりである。
【００１５】
図１，２は、パンツ型に成形する以前の状態で示すおむつ１の部分破断平面図と、パンツ型に成形したおむつ１の部分破断斜視図とである。図１では、横方向を矢印Ｘで示し、縦方向を矢印Ｙで示す。図２では、胴周り方向を矢印Ｘで示し、脚周り方向を矢印Ｙで示す。なお、表裏面シート２，３やカバーシート６における内面とは、コア４に対向する面

をいい、それらシート２，３，６の外面とは、コア４に非対向の面をいう。

【００１６】

おむつ１は、透液性表面シート２と、不透液性裏面シート３と、それらシート２，３の間に介在して全体がティッシュペーパー（図示せず）に被覆、接合された吸液性コア４とを主要な構成部材とし、さらに、実質的に不透液性の脚周り用防漏カフ５と、縦方向へ長い略矩形の中央開口部７を有する実質的に不透液性のカバーシート６と、実質的に不透液性の胴周り用防漏カフ８とを有する。表裏面シート２，３やカバーシート６、防漏カフ５，８は、非伸縮性のものである。コア４は、ティッシュペーパーを介して表面シート２と裏面シート３との内面に接合されている。

【００１７】

おむつ１は、図１に示すように、縦方向に前胴周り域２０と、後胴周り域２２と、それら胴周り域２０，２２の間に位置する股下域２１とを有し、互いに並行して横方向へ延びる両端縁部１ａと、縦方向へ延びる両側縁部１ｂとを有する。両側縁部１ｂは、股下域２１においておむつ１の横方向内方へ向って弧を画いている。

【００１８】

両端縁部１ａには、横方向へ伸縮する複数条の胴周り用弾性部材９，１０が伸長状態で取り付けられている。股下域２１における両側縁部１ｂには、縦方向へ伸縮する複数条の脚周り用弾性部材１１が伸長状態で取り付けられている。

【００１９】

脚周り用防漏カフ５は、おむつの両側縁部１ｂに取り付けられて縦方向へ延びている。カバーシート６は、表面シート２の外面に配置されている。胴周り用防漏カフ８は、後胴周り域２２におけるカバーシート６の外面に取り付けられて横方向へ延びている。

【００２０】

防漏カフ５は、コアの両側縁４ｂ近傍を縦方向へ延びる固定側部５ａと、固定側部５ａに連なって表面シート２の上方へ起立性向を有する自由側部５ｂと、おむつ１の横方向内方へ倒伏されて表面シート２に重なる固定両端部５ｃとを有する。自由側部５ｂには、縦方向へ伸縮する弾性部材１２が伸長状態で取り付けられている。弾性部材１２は、自由側部５ｂの一部に被覆されている。防漏カフ５では、固定側部５ａがコア４の側縁４ｂ近傍を覆う表面シート２の外面に固着され（図４参照）、固定両端部５ｃがおむつ１の前後胴周り域２０，２２に位置する表面シート２の外面に固着されている。

【００２１】

カバーシート６は、おむつ１の両端縁部１ａおよび両側縁部１ｂと防漏カフ５の固定側部５ａおよび固定両端部５ｃとを被覆している。カバーシート６は、その内面がおむつの両端縁部１ａと両側縁部１ｂとに固着されている。カバーシート６の開口部７は、股下域２１の略全域に延びるとともに、股下域２１から前後胴周り域２０，２２の側へわずかに延びている。

【００２２】

防漏カフ８は、後胴周り域２２の端縁部１ａの側に位置して横方向へ延びる固定部８ａと、固定部８ａから股下域２１へ向かって延びる自由端部８ｂと、後胴周り域２２の両側縁部１ｂに位置して縦方向へ延びる側部８ｃとを有する。防漏カフ８では、固定部８ａと側部８ｃとがカバーシート６の外面に固着されている。自由端部８ｂには、横方向へ延びる弾性部材１３が伸長状態で取り付けられている。自由端部８ｂは、弾性部材１３の収縮によって表面シート２の上方へ起立性向を有する。弾性部材１３は、自由端部８ｂの一部に被覆されている。

【００２３】

図１の状態にあるおむつ１は、図２に示すように、前後胴周り域２０，２２に延びる両側縁部１ｂが間欠的に固着されることでパンツ型に成形される。パンツ型に成形されたおむつ１には、胴周り開口１４と一対の脚周り開口１５とが画成されている。おむつ１では、両端縁部１ａが胴周り開口１４の縁部１ａを形成し、股下域２１に延びる両側縁部１ｂが脚周り開口１５の縁部１ｂを形成する。胴周り用弾性部材９，１０は、胴周り開口１４

の縁部１ａを胴周り方向へ延びている。脚周り用弾性部材１１は、脚周り開口１５の縁部１ｂを脚周り方向へ延びている。おむつ１では、防漏カフ５が脚周り開口１５の縁部１ｂに沿って延び、防漏カフ８が後胴周り域２２における胴周り開口１４の縁部１ａに沿って延びている。

【００２４】

おむつ１では、弾性部材９，１０，１１が収縮して胴周り開口１４の縁部１ａと脚周り開口１５の縁部１ｂとに多数のギャザーが形成されている。おむつ１では、弾性部材１２の収縮によって防漏カフ５の自由側部５ｂが表面シート２の上方へ起立し、弾性部材１３の収縮によって防漏カフ８の自由端部８ｂがカバーシート６の上方へ起立している。

【００２５】

図３，４は、図２のＡ－Ａ線端面図と、図２のＢ－Ｂ線端面図とである。おむつ１の後胴周り域２２では、図３に示すように、防漏カフ８の固定部８ａが胴周り用弾性部材９から股下域２１の方向へ所与寸法離間している。防漏カフ８では、その起立支点８ｄが胴周り用弾性部材９と脚周り用弾性部材１１との間に延びるカバーシート６の実質的に非収縮の領域１６に位置している。防漏カフ８では、胴周り用弾性部材９が胴周り方向へ収縮し、胴周り開口１４の縁部１ａが収縮したとしても、それにともなって防漏カフ８の自由端部８ｂが収縮することはなく、自由端部８ｂに皺が寄ってしまうことはない。

【００２６】

おむつ１では、防漏カフ８の固定部８ａと起立支点８ｄとがコア４の端縁４ａ近傍を覆うカバーシート６の外面に位置している。ゆえに、おむつ１では、表裏面シート２，３やカバーシート６よりも高い剛性を有する半剛性体であるコア４が防漏カフ８の自由端部８ｂの収縮を阻止している。おむつ１では、固定部８ａと起立支点８ｄとがコア４の端縁４ａと胴周り用弾性部材９との間に延びるカバーシート６の外面に位置していてもよい。

【００２７】

防漏カフ８の起立支点８ｄと起立支点８ｄに近接する胴周り用弾性部材９ａとの離間寸法Ｌ１は、５～１５ｍｍの範囲にある。離間寸法Ｌ１が５ｍｍ未満では、胴周り用弾性部材９の収縮にともなって防漏カフ８の自由端部８ｂが収縮し、自由端部８ｂに皺が寄ってしまう場合がある。

【００２８】

後胴周り域２２の縁部１ａでは、表面シート２の端部２ａがコア４の端縁４ａから外側へわずかに延び、裏面シート３の端部３ａとカバーシート６の周縁部６ａとが表面シート２の端部２ａからさらに外側へ延びている。端部２ａは、端部３ａと周縁部６ａとの間に介在し、端部３ａと周縁部６ａとに固着されている。端部３ａと周縁部６ａとは、それらが互いに重なり合う部分において固着されている。

【００２９】

裏面シート３は、プラスチックフィルム３ｃと疎水性不織布３ｄとをラミネートした複合シートであり、胴周り用弾性部材９がプラスチックフィルム３ｃと疎水性不織布３ｄと間に取り付けられている。

【００３０】

後胴周り域２２における胴周り開口１４の縁部１ａでは、防漏カフ８の自由端部８ｂが起立して障壁を形成する。おむつ１では、排泄物が開口部７の縁７ａからカバーシート６の外面に漏出したとしても、防漏カフ８の自由端部８ｂが排泄物を堰き止めるので、胴周り開口１４の縁部１ａからの排泄物の漏れを防止することができる。縁部１ａでは、表面シート２の端部２ａが縁部１ａの端まで延びていないので、端部２ａに到達した排泄物が縁部１ａから漏出することはない。

【００３１】

脚周り開口１５の縁部１ｂでは、図４に示すように、表面シート２の側部２ｂがコア４の側縁４ｂから外側へわずかに延び、裏面シート３の側部３ｂとカバーシート６の周縁部６ａとが表面シート２の側部２ｂからさらに外側へ延びている。側部２ｂは、側部３ｂと周縁部６ａとの間に介在し、側部３ｂと周縁部６ａとに固着されている。側部３ｂと周縁

部６ａとは、それらが互いに重なり合う部分において固着されている。脚周り用弾性部材１１は、裏面シート３を形成するプラスチックフィルム３ｃと疎水性不織布３ｄとの間に取り付けられている。股下域２１では、防漏カフ５の自由側部５ｂが起立して障壁を形成するので、股下域２１からの排泄物の漏れを防止することができる。縁部１ｂでは、表面シート２の側部２ｂが縁部１ｂの端まで延びていないので、側部２ｂに到達した排泄物が縁部１ｂから漏出することはない。

【００３２】

防漏カフ８は、前胴周り域２０におけるカバーシート６の外面に取り付けられていてもよい。この場合、防漏カフの起立支点が胴周り用弾性部材１０と脚周り用弾性部材１１との間に延びるカバーシート６の実質的に非収縮の領域１７（図１参照）に位置していることが必要である。

【００３３】

図５，６は、他の実施の形態を示すおむつ１の平面図と、パンツ型に成形したおむつ１の部分破断斜視図とであり、図７は、図６のＣ－Ｃ線端面図である。このおむつ１は、透液性表面シート２と不透液性裏面シート３との間に吸液性コア４が介在し、実質的に不透液性の、脚周り用防漏カフ５と、カバーシート６と、胴周り用防漏カフ８とを有する点において図２のそれと同様である。図５のおむつ１が図２のそれと異なる点は、以下のとおりである。

【００３４】

このおむつ１では、カバーシート６の中央開口部７が股下域２１の略全域に延びるとともに、股下域２１から前後胴周り域２０，２２の略中程へ延びている。防漏カフ８の自由端部８ｂは、後胴周り域２２に開口する開口部７の上方へ延びている。

【００３５】

このおむつ１では、開口部７の縦方向の寸法が図１のそれよりも大きく、表面シート２の露出面積を大きくすることができ、排泄物を開口部７内に確実に収容することができる。おむつ１では、図７に示すように、防漏カフ８の自由端部８ｂが起立して障壁を形成したときに、自由端部８ｂが開口部７の一部をその上方から覆うので、表面シート２の外面を拡散した排泄物が後胴周り域２２における胴周り開口１４の縁部１ａに集中したとしても、防漏カフ８の自由端部８ｂが排泄物を堰き止め、胴周り開口１４の縁部１ａからの排泄物の漏れを防止することができる。

【００３６】

図８，９は、他の実施の形態を示すパンツ型に成形したおむつ１の部分破断斜視図と、図８のＤ－Ｄ線端面図とである。このおむつ１は、カバーシート６の部分が胴周り用防漏カフ８を兼ねている。防漏カフ８は、後胴周り域２２における胴周り開口１４の縁部１ａから外側に延びるカバーシート６の部分が縁部１ａにおいてカバーシート６の外面の側へ折り返されることにより画成されている。

【００３７】

図１０，１１は、他の実施の形態を示すパンツ型に成形したおむつ１の部分破断斜視図と、図１０のＥ－Ｅ線端面図とである。このおむつ１は、裏面シート３を形成する疎水性不織布３ｄの部分が胴周り用防漏カフ８を兼ねている。防漏カフ８は、後胴周り域２２における胴周り開口１４の縁部１ａから外側に延びる疎水性不織布３ｄの部分が縁部１ａにおいてカバーシート６の外面の側へ折り返されることにより画成されている。

【００３８】

図５と図８と図１０とのおむつ１では、防漏カフ８の起立支点８ｄが胴周り用弾性部材９と脚周り用弾性部材１１との間に延びるカバーシート６の実質的に非収縮の領域１６に位置している。防漏カフ８の起立支点８ｄと起立支点８ｄに近接する胴周り用弾性部材９ａとの離間寸法Ｌ１は、５～１５ｍｍの範囲にあることが好ましい。

【００３９】

表面シート２には、不織布または開孔プラスチックフィルム等の透液性のシートを使用することができる。裏面シート３には、プラスチックフィルムと疎水性不織布とをラミネ

ートした複合シートの他に、疎水性不織布、不透液性のプラスチックフィルムのいずれかを使用することができる。防漏カフ５、カバーシート６、防漏カフ８には、疎水性不織布を使用することができる。また、裏面シート３、防漏カフ５、カバーシート６、防漏カフ８には、高い耐水性を有するメルトブローン法による不織布を、高い強度を有しかつ柔軟性に富んだスパンボンド法による不織布で挟んだ複合不織布を使用することもできる。

【００４０】

不織布としては、スパンレース、ニードルパンチ、メルトブローン、サーマルボンド、スパンポンド、ケミカルボンド、エアースルー、の各製法により製造されたものを使用することができる。不織布の構成繊維としては、ポリオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系、の各繊維、ポリエチレン／ポリプロピレンまたはポリエステルからなる芯鞘型複合繊維またはサドバイサイド型複合繊維を使用することができる。

【００４１】

コア４は、粉砕パルプと高吸収性ポリマー粒子と熱可塑性合成樹脂繊維との混合物であり、所要の厚みに圧縮されている。ゆえに、コア４は、表裏面シート２，３やカバーシート６よりも高剛性である。ポリマー粒子としては、デンプン系、セルロース系、合成ポリマー系のものを使用することができる。

【００４２】

表裏面シート２，３どうしの固着、表裏面シート２，３に対する防漏カフ５やカバーシート６、防漏カフ８の固着、表裏面シート２，３に対するコア４の接合、弾性部材９，１０，１１，１２，１３の取り付けには、ホットメルト系接着剤、または、ヒートシールやソニックシール等の熱による溶着手段を使用することができる。

【００４３】

この発明は、テープファスナとテーゲットテープとを互いに係合させることで、おむつの前後胴周り域を連結するオープン型のおむつについても実施することができる。

【００４４】

【発明の効果】

本発明にかかる使い捨て着用物品によれば、縦方向へ長い開口部を有する不透液性のカバーシートが表面シートの外面に配置され、そのカバーシートの外面に不透液性の胴周り用防漏カフが固定されているので、胴周り用弾性部材が収縮したとしても、防漏カフの自由端部が収縮することはなく、自由端部に皺が寄ることはない。ゆえに、物品では、防漏カフの自由端部に表面シートの側へ倒伏する部分が形成されることはなく、自由端部が起立して障壁を形成し、物品の両端縁部からの排泄物の漏れを防止することができる。

【００４５】

カバーシートの開口部が物品の股下域から胴周り域へ向かって延び、かつ、防漏カフの自由端部が胴周り域に開口するカバーシートの開口部の上方へ延びる物品では、排泄物をカバーシートの開口部内に確実に収容することができるとともに、防漏カフの自由端部が開口部の一部をその上方から覆うので、表面シートの外面を拡散した排泄物が物品の両端縁部に集中したとしても、防漏カフの自由端部が排泄物を堰き止め、物品の両端縁部からの排泄物の漏れを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

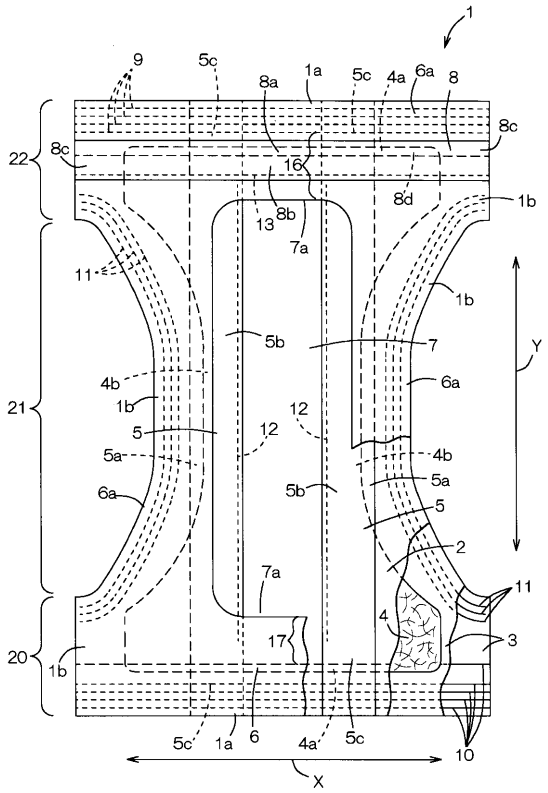
【図１】　パンツ型に成形する以前の状態で示すおむつの部分破断平面図。
【図２】　パンツ型に成形したおむつの部分破断斜視図。
【図３】　図２のＡ－Ａ線断面図。
【図４】　図２のＢ－Ｂ線断面図。
【図５】　他の実施の形態を示すおむつの平面図。
【図６】　パンツ型に成形したおむつの部分破断斜視図。
【図７】　図６のＣ－Ｃ線断面図。
【図８】　他の実施の形態を示すパンツ型に成形したおむつの部分破断斜視図。
【図９】　図８のＤ－Ｄ線端面図。
【図１０】　他の実施の形態を示すパンツ型に成形したおむつの部分破断斜視図。

【図１１】　図１０のＥ－Ｅ線端面図。

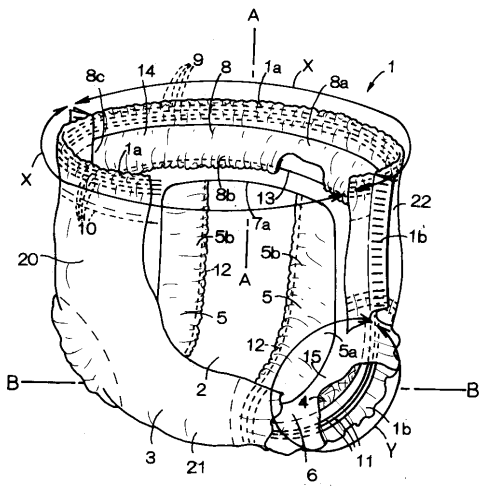
【符号の説明】

１	パンツ型の使い捨ておむつ（使い捨て着用物品）
１ａ	両端縁部
１ｂ	両側縁部
２	透液性表面シート
３	不透液性裏面シート
４	吸液性コア
４ａ	端縁
６	カバーシート
７	中央開口部
８	胴周り用防漏カフ
８ａ	固定部
８ｂ	自由端部
８ｃ	側部
８ｄ	起立支点
９，１０	胴周り用弾性部材
１１	脚周り用弾性部材
１３	弾性部材
１６	領域
１７	領域
２０	前胴周り域
２１	股下域
２２	後胴周り域
Ｌ１	寸法

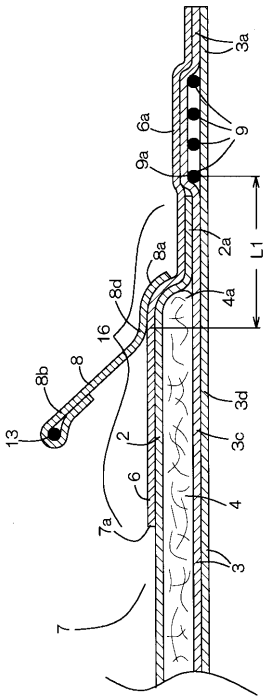
【図１】



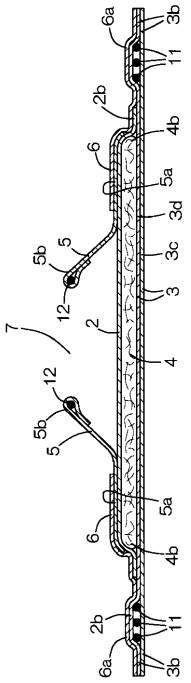
【図２】



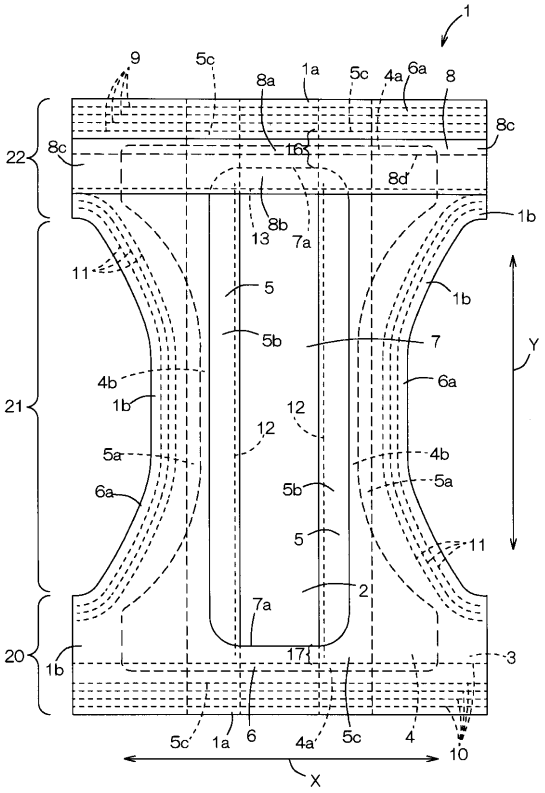
【図３】


3a
6a
9
9a
2a
L1
8a
8d
4a
16
8
8b
13
3d
3c
2
6
4
7a
3
7

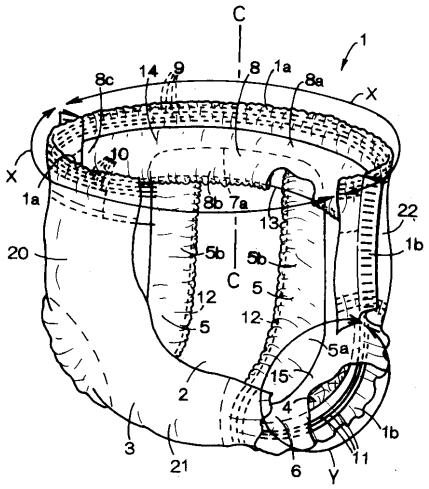
【図４】


6a
3b
11
2b
4b
6
5a
3d
5b
5
3c
12
3
7
2
4
12
5b
5
5a
6
4b
2b
11
6a
3b

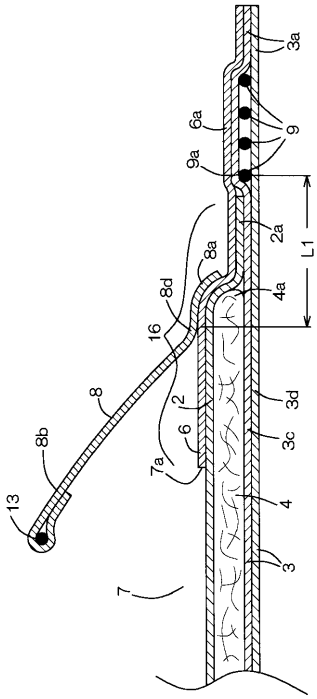
【図５】


1
9
5c
8a
1a
5c
4a
6a
8
8c
22
8c
16
8d
1b
13
8b
7a
11
5
1b
5b
7
Y
4b
1b
6a
21
12
12
4b
5a
5a
5b
6a
5
11
2
7a
17
20
1b
3
5c
1a
6
4a
5c
4
10
X

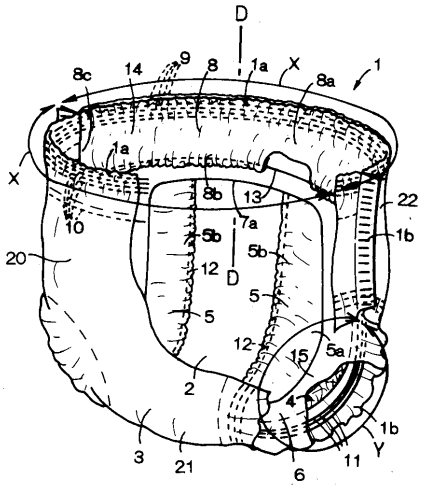
【図６】


C
1
8c
14
9
8
1a
8a
X
10
X
1a
8b
7a
13
22
1b
20
5b
5b
C
5
12
5
12
5a
15
2
4
1b
3
21
6
11
Y

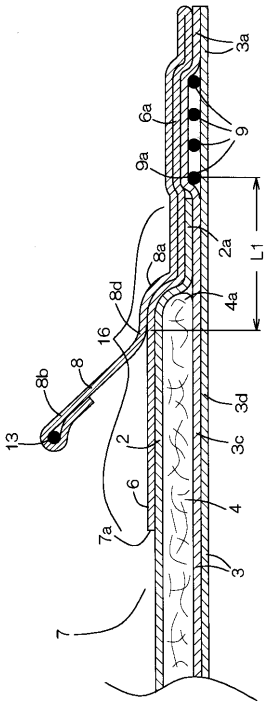
【図７】


3a
6a
9
9a
2a
L1
8a
8d
4a
16
8
2
3d
8b
6
3c
7a
13
4
3
7

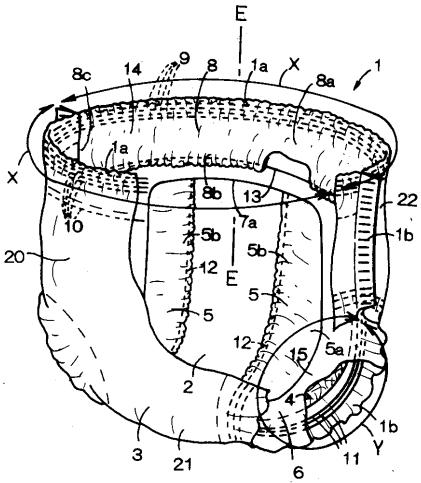
【図８】


D
8c
14
9
8
1a
X
8a
1
X
1a
8b
13
22
10
7a
1b
5b
5b
20
12
D
5
5
12
15
5a
2
4
1b
3
21
6
11
Y

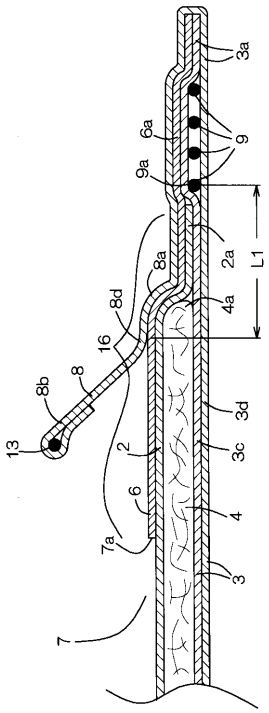
【図９】


3a
6a
9
9a
2a
L1
8a
8d
4a
16
8
8b
3d
2
3c
13
6
4
7a
3
7

【図１０】


E
8c
14
9
8
1a
X
8a
1
X
1a
8b
13
22
10
7a
1b
5b
5b
20
12
E
5
5
12
15
5a
2
4
1b
3
21
6
11
Y

【図１１】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０６－０２１６２３（ＪＰ，Ｕ）
特開平１１－３２３６１１（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－１４０００４（ＪＰ，Ａ）
実開平０５－０１５９３４（ＪＰ，Ｕ）
特開平０８－２８０７３９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A61F 13/15-13/84
A61F 5/44